

かわ きた しょう がっ こう 川北小学校

所在地	〒555-0041 西淀川区中島1丁目11番20号
電話	06-6473-0041
HPアドレス	http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e631366
校長名	吉岡 千明
児童数・学級数	381名・17学級（特別支援学級4）
標準服	あり



学校概要

本校は、明治6年に西成郡第五区第九番小学校として創立し、本年度で152周年を迎える歴史と伝統のある学校です。「地域の子どもは、地域で育つ」という地域の熱い思いと労を惜しまない学校支援・協力ががあります。一人一人の子どもを大切に育て、校訓「明るく 仲よく 正しく 強く」のもと教育が進められ、今日に至っています。

教育目標

自主性を養い、社会性を高め、創造性を伸ばし、心身の健全な発達をはかる。

学校行事（予定）

- 4月 入学式、始業式、遠足、学習参観
- 5月 家庭訪問、遠足、避難訓練1
- 6月 日曜参観、水泳学習、避難訓練2
- 7月 水泳学習、個人懇談会、5年一泊移住
- 8月 PTAラジオ体操
- 9月 避難訓練3、土曜参観（学校公開・学校説明会）、社会見学
- 10月 6年修学旅行、学校公開、校外学習、運動会
- 11月 避難訓練4、校外学習
- 12月 個人懇談会
- 1月 避難訓練5
- 2月 6年卒業遠足、学習参観
- 3月 卒業式、修了式

沿革

- 明治 6年 3月 西成郡第五区第九番小学校として創立
- 明治 12年 3月 西成郡中島小学校と改める
- 明治 26年 3月 中島尋常小学校と改める
- 大正 10年 11月 西島町旧校舎に移転
- 大正 14年 4月 川北尋常高等小学校と改める
- 昭和 16年 4月 大阪市立川北国民学校と改める
- 昭和 21年 4月 大阪市立川北小学校と改める
- 昭和 44年 1月 中島町（現所在地）へ校舎新設し移転
- 昭和 48年 3月 創立百周年記念式典
- 昭和 51年 12月 「ふるさとの森」完成
- 平成 7年 3月 講堂兼体育館竣工
- 平成 8年 5月 新プール竣工
- 平成 11年 1月 パソコン教室完成
- 平成 13年 3月 「ピオトープ・ふるさとの小川」完成
- 平成 15年 3月 創立130周年記念式典・記念碑建立
- 平成 20年 6月 学校図書活性化事業開始
- 平成 23年 3月 耐震工事
- 平成 25年 9月 英語重点校事業開始
- 平成 28年 8月 教室空調機設置
- 令和 5年 2月 創立150周年記念式典

学校運営に関する計画（年度目標）

【安全・安心な教育の推進】

- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「学校は、楽しい」の質問に肯定的回答をする児童の割合を87%以上にする。
- 令和6年度小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を77%以上にする。
- 令和6年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和6年度の学校保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な教育環境づくり（環境美化、環境衛生等）に努めている」の質問に肯定的回答をする保護者の割合を89%以上にする。
- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいか知っている」の質問に肯定的回答をする児童の割合を89%以上にする。
- 令和6年度の学校保護者アンケートにおける「子どもたちは、学校のきまり（ルール）を守っている」の質問に肯定的回答をする保護者の割合を90%以上にする。
- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に肯定的回答をする児童の割合を89%以上にする。
- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「自分には、良いところがありますか」の質問に肯定的回答をする児童の割合を67%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」の質問に肯定的回答をする児童の割合を84%以上にする。
- 令和6年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

- 令和6年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を67%以上にする。
- 令和6年度小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- 令和6年度小学校学力経年調査における「学校の友だちとの間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32%以上にする。
- 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を前年度より全国平均に近づける。
- 令和6年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を59%以上にする。
- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「手洗いをしている」の質問に、肯定的回答をする児童の割合を90%以上にする。
- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「給食が好き嫌いなく食べている」の質問に肯定的回答をする児童の割合を84%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和6年度において、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 令和6年度の学校保護者アンケートにおける「学校は、ICT（1人1台学習者用端末、デジタル教材、協働学習支援ツール等）を活用した学習をすすめている。」の質問に肯定的回答をする保護者の割合を79%以上にする。
- 令和6年度において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を82%以上にする。
- 令和6年度の学校児童アンケートにおける「読書が好きですか」の質問に肯定的回答をする児童の割合を79%以上にする。

◆全国学力・学習状況調査 令和5年度の調査結果 平均正答率（％）

国語	算数
62	58

結果の概要等

平均正答率については、国語は、全国平均より5.2ポイント、大阪市平均より5ポイント、算数は、全国平均より4.5ポイント、大阪市平均より4ポイント下回っている。算数・国語は、令和4年度の平均正答率と比べ、全国平均との差が、国語で0.4ポイント、算数で0.7ポイント縮まり、大阪市平均との差が、国語で1ポイント広がり、算数は前年度と同様であった。

平均無解答率については、国語は、全国平均より0.7ポイント、大阪市平均より2ポイント、算数は、全国平均より0.2ポイント、大阪市平均より0.5ポイント高かった。

国語、算数ともに、習熟度別少数人数指導の充実や個に応じた指導を進めていくことで、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。その基礎力を土台とし、他者との対話や協働を通して、様々な課題を発見したり、最適解や納得解を導き出したりする力を養う。

学習に取り組む中で、児童が知的好奇心や自己肯定感を高められるよう、授業研究や研修を進める。また、教員の授業力・指導力向上を図るとともに、全教育活動において、自分のよさに気づき、他者理解を深める機会を多く設け、自他を大切に児童を育てていく。

今後は、デジタルドリルやオンライン学習等の有効活用を図ることで、自ら計画を立てて学習する習慣を身につけさせるとともに、自主的に学びに向かう態度を育成する。

◆全国体力・運動能力調査 令和5年度の調査結果

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール投げ (m)	体力合計点 (点)
男子	16.52	17.26	32.19	39.85	43.58	9.57	156.78	20.26	51.81
女子	16.86	16.90	40.69	36.55	29.62	9.91	148.07	13.34	53.31

結果の概要等

男子は、体力合計点と反復横とびが大阪市平均、握力と立ち幅とびが全国平均を上回った。上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げは全国・大阪市平均を下回った。

児童質問紙において、質問項目「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に「好き」と回答をする児童の割合と1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、全国・大阪市平均を下回った。

女子は、握力をはじめ、長座体前屈、立ち幅とび、ソフトボール投げは、全国・大阪市平均を上回った。体力合計点、反復横とびは大阪市平均を上回ったが、上体起こし、20mシャトルラン、50m走は、全国・大阪市平均を下回った。

今後取り組むべき課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響により低下したと考えられる体力・運動能力や児童の運動に対する意欲の向上を図ることである。

運動に関する活動の充実や児童が運動に親しむ機会を設け、運動習慣を身につけさせること。体育の授業で学んだことを、休み時間等に自主的に体力づくりに取り組む児童を育てること。教員の校内研修を行い、授業力を高め、運動に対する専門性を高めること。また、家庭に運動習慣の大切さを発信し、家庭と連携して運動に親しむ児童を育てることに取り組んでいく。

友だち（なかま）思いの川北っ子

川北小では、子ども同士のつながりを大切にしています。高学年の児童による委員会活動を中心に、学校の友だち（なかま）が仲よくなるように、楽しい学校生活を送れるように、いろいろな「なかまづくり」の取組をしています。

集会委員会は、児童集会でたてわり班が仲よくなるように、ゲームやクイズを考えて、行っています。休み時間も学級、学年を越えて遊んでいます。友だち（なかま）思いの川北っ子たちです。ここ数年のコロナ禍も収束し、様々な取組が、復活しています。



豊かな自然環境

校庭の奥に学習園やふるさとの小川があります。学習園では年間を通していろいろな植物を育てています。愛育会（学校教育支援活動をしてくださる地域人材バンク）の方々が、苗を用意して下さったり、土を耕して下さったり、学習がスムーズにいくように手伝って下さっています。

1・2年生はサツマイモを育てています。愛育会の方々と、秋に収穫をします。

また、水田があり、5年生が毎年「米作り」をしています。田植えから稲刈り、脱穀まで貴重な体験をさせていただいています。米作りは水の管理が難しく、愛育会の方々が水の量を調節して下さっています。そのおかげで、秋にはたわわに実った稲でいっぱいになります。田んぼにはよい香りがします。

ふるさとの小川では、メダカをはじめ、ヤゴ、カマキリ、バッタ、トンボ、モンシロチョウなど、たくさんの命が生まれています。睡蓮がとてもきれいな白い花を咲かせます。

校庭には、ウメヤスモモ、ビワ、カキなど実のなる木もあり、季節ごとの成長の様子を観察することができます。たくさんの命が輝く校庭です。

